

～福島原発事故が浮き彫りにしたもの～

9月10日、慶応大学三田キャンパスにて、標題の「自然と環境を守る全国交流会が開催されました。

プログラム

基調報告・講演

- ・「いま私たちに求められていること」川村晃生慶応大学教授
- ・「自然を破壊する公共事業の裏側」横田一フリーリポーター
- ・「脱原発とエネルギー政策の転換」伴英幸原子力資料情報室共同代表

パネルディスカッション

- パネラー：水野隆夫(沖縄・泡瀬干潟大好きクラブ)
澤井正子(原子力資料情報室)
橋本良仁(高尾山の自然を守る市民の会)
渡辺洋子(ハッ場あしたの会)
懸樋哲夫(リニア・市民の会)

各団体提案の決議文採択

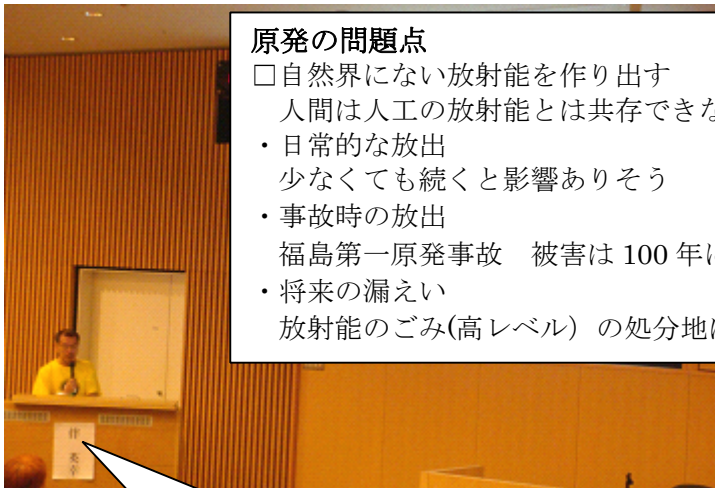
室温 28 度設定の会場も 100 名以上の参加者の熱気で室温がどんどん上がるほどでした。質問も次から次と、途切れることなく続き、皆さんの関心度の高さを痛感しました。



【脱原発とエネルギー政策の転換】原子力資料情報室共同代表：伴英幸氏

原発の問題点

- 自然界にない放射能を作り出す
人間は人工の放射能とは共存できない
- ・日常的な放出
少なくとも続くと影響ありそう
- ・事故時の放出
福島第一原発事故 被害は 100 年に及ぶ
- ・将来の漏えい
放射能のごみ(高レベル) の処分地は未定



原発は、使用済み核燃料の処分が確定されていないので、「トイレのないマンション」と言われる。

福島原発事故＝全電源喪失事故

- ・原発は止めても一定期間冷やし続けなければならない。
- ・福島第一原発は津波によって全電源が失われた→冷却できない

↓
燃料が溶ける→水素発生

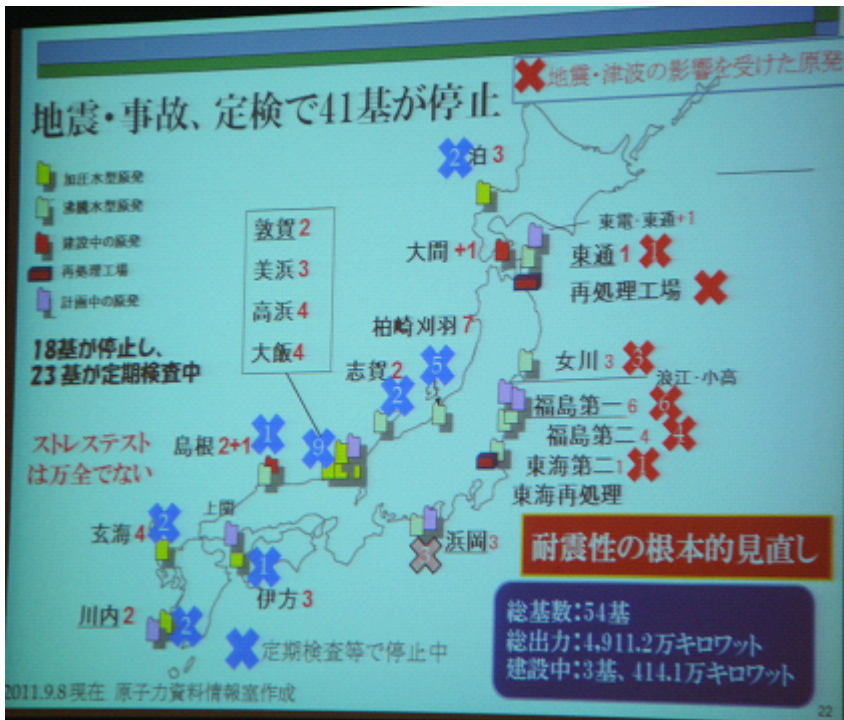
↓
放射能飛散←水素爆発

私たちの日常でも、トイレが無ければ、一日でも生活が成り立ちません。原発も使用済み核燃料の安全な処分が確定されなければ一日でも稼働すべきではないと思います。



東京電力のデータをもとに解析⇒地震が決定的原因（地震によってダメージを受けたのであれば、バックチェックの見直しが必要）

指針の見直しが必要：活断層・連動地震・施設に及ぼす地震の強さ・地震による連動の揺れの想定など



この図からも、日本国内 54 基のうち、現在も 13 基が稼働しています。点検で停止中でも、地震などで電源が失われれば冷却できなくなり、第 2、第 3 の福島第一原発になってしまいます。未だに有感地震が毎日発生しています。いつ、大地震がくるかわかりません。早急に原発を止めて、地震による影響を検討し、対策をとってほしいです。



でも、原発を止めたら、もっと大変な計画停電になるのかなあ。日常生活の節電だけでは補えないし、工場などの節電対策も大丈夫かなあ。



エネルギー政策の転換⇒政策転換を

- * 原発がなくても電気は足りる
 - ・火力の定期検査に工夫が必要
 - ・省エネと再生可能エネルギーを中心に据える
- * 制度改革を進める
 - ・電力の自由化を一般消費者まで広げる
 - ・再生可能エネルギー全量買い取り
 - ・発電・送電の分離を進める
 - ・原子力安全・保安院の独立を
 - ・電源三法交付金の廃止

電力三法交付金 (1974 年 6 月 3 日に成立)

- ・電源開発促進税法
- ・電源開発促進対策特別会計法
- ・電源用施設周辺地域整備法

電源開発が行われる地域に対して補助金を交付して電源開発の建設を促進を図る。電力会社は 1000kw/h につき 425 円を電源開発促進税として国に納付。(この税金の負担は消費者が電力料金に上乗せして支払う)

納付された税金は、発電所など関連施設の立地予備周辺市町村に対し交付金等の財源になる (電源開発促進対策特別会計法)。

425 円のうち、約 45% は電源用施設周辺地域整備法の規定に基づく交付金及び電源用施設の設置を円滑化するための財政上の措置による交付金、補助金、委託費などで、約 55% は新エネルギー開発・導入などにかかる。

エネルギー基本計画

2003 年に エネルギー政策基本法(エネルギーの需給・利用に関する国の施策の基本的な方向性をしめしたもの)に基づいて政府が策定。

- ・エネルギー資源の安定供給を確保するために供給源の多様化や自給率・利用効率の向上を図ること
- ・地球温暖化の防止や環境保全が図られたエネルギーの需給を実現すること
- ・エネルギー市場の規制緩和を推進すること

* 2007 年・2010 年に改定

原発を止めても大丈夫ですね。エネルギー政策基本法の安定供給、地球温暖化防止、環境保全を遂行するなら、原発を止めて、再生可能エネルギーを推進するべきだと思います。



再生可能エネルギーとは

- ・自然界で起こっている現象から取り出せ、枯渇しない
- ・短期間・自発的に再生される自然現象に由来し、枯渇しない
- ・自然環境の中で何度でも繰り返し起きている現象から取り出せる
- ・短期間・自発的・定常的に再生される自然現象に由来し、枯渇しない

* バイオマス・太陽熱利用・雪氷熱利用・地熱発電・風力発電・太陽光発電

* 対義語 = 枯渇性エネルギー (化石燃料・ウランなどの埋蔵資源を利用するもの)